

一人ひとりの想いつたえたい >>> あなたの声でつくる情報誌

NO. **65**
2007・冬号

まなこ

企画・発行

武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当



特集 夢をかたちに

取材

●再就職の夢、応援します

レポーター体験記

橘田 佳音利さん

石丸 俚恵子

●「イタリア風家庭料理」の店の経営者は

村上 憲子さん

●夢……それは「私」をとり戻すこと

松井 昭子さん

寄稿

・私の夢

まなこレポーター 田村 恵子

情報

・「ライター入門講座」のお知らせ

・男女共同参画講演会を開催しました

市民活動センター男女共同参画担当



出産を機に退職、子育てが一段落したらパートへ。型にはめられがちだった女性たちの生き方も随分と多様化してきました。子育てをしながら働き続ける人も増えています。子育て中に培った人脈や特技を生かし、起業や再就職を目指す人も。

65号は「夢をかたちに」をテーマに、起業や再就職について考えます。誰もが胸の中であたためていた夢を小さな一歩から形にしていくことができれば、どんなに素敵でしょう。

再就職の夢、応援します



きつだ かおり
橋田 佳音利さん

10年前の再就職採用面接。橋田佳音利さんは年齢を告げただけで断られた。なぜ女性は本人の能力ではなく年齢で切られるのか。再就職を夢とするなら、どうやってそれを実現させるのか。自らの体験をバネに、主に中高年の女性を対象にした人材紹介会社を起業した彼女に、話を聞いてみた。

「目標モデルをしっかりもつこと、そして、もし達成できなかつたら自分に猶予を与えることも重要です」

- Q** 近年、女性の労働力率や再就職者が増加し、女性は積極的に社会に復帰し始めたように思えます(グラフ①)。さらに、男性も女性に働くことを勧め始めたようですが？(グラフ②)
- A** 女性は家庭の中にいるべきという保守的な考えが変わり、女性の社会進出を応援する土壌が、男性にも社会にも育ってきたのではないのでしょうか。
- Q** ところが内訳は、正社員ではなくパートが多い(グラフ③)。中高年専業主婦からいきなり正社員への採用は、やはり厳しいのでしょうか。
- A** いきなりでは企業も女性も不安では？パートは、再就職へ向けて実績を積む第一ステップだと私は捉えています。
- Q** 男女雇用機会均等法の施行以降なくなつたかに見える年齢の壁が、実際は今なお正社員への採用を阻んでいるようです。なぜ企業は35歳を壁に正社員採用を嫌がるのでしょうか。
- A** 中高年女性は、豊富な経験と知識を持ち企業に有益であるはずですが、仕事は年齢ではなく、能力と経験と前向きな努力であると私は考えますが、豊富な体験を絶対視し入社数週間です会社批判をする女性が多い点が問題です。社長にとっての会社経営は子育てと同じ。一生懸命苦勞して育てても、なかなか親の思う通りに育ってくれない。でも、可愛い。そこへ昨日今日雇つた家政婦さんにいきなり、こんなんだからダメなんだと言われたらどうです？やめてもらいたいですよ？
- A** 会社のやり方や歴史など背景を理解するのに1年以上はかかるはずで、その後なら提案として企業も受け入れますが、数週間での提案はただの不平等と捉えられるので要注意なのです。
- Q** まずは、どうやって壁を乗り越え再就職に成功すればいいのでしょうか。
- A** パソコンスキルなど事務能力の上にキラメキがあれば絶対だと思います。輝く女性、高く売れる自分になることが成功のカギ。例えば主婦の徹底した家計管理は、経理の仕事に通じる立派な能力ですがそれにも気付かず、年齢の壁に阻まれ自信を失っている。そこで、他人とグループになりお互いの長所探しを経て自信を回復する方法をお勧めしています。すると皆さん輝きを増していけます。他にビジネスマナーや若く見えるメイク

法、フェイストレーニング法などの講座もあります。

Q これからの夢は？

A 35歳以上40代50代の、年齢より若々しく見える^{さいらめ}女性をマチュア (mature) な女性と私は呼びますが、彼女たちの女性同士での横のつながりを考えたマチュアトータルサポート。それから商品開発。営業時代から私は外反母趾だったので、痛くならないおしゃれな靴とか、荷物が重かったので転がしてキャリアでできるブリーフケース、名付けてキャリアブリとか。

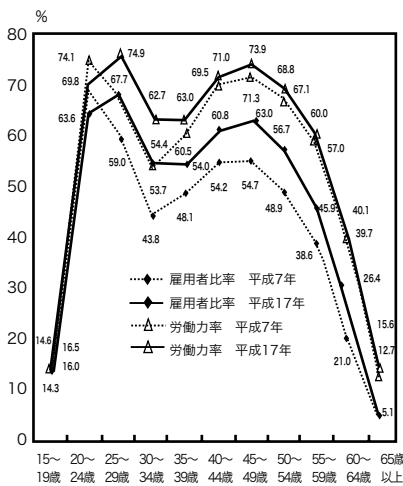
私は90歳になっても^{さむよう}颯爽と働きますよ。モデルは銀座、老舗呉服屋の創立者。90歳でも着物で颯爽と歩いていて、その後ろを若い子が小走りについていく。かつこいいですよ！

40代以上の中途採用者を出したことがない一部上場企業に40代、50代と続いて女性を送り出したあと、女性だけの営業部隊ができたと聞いた時は、飛び上がって喜んだという。
彼女を見てみると、恐れることなく社会へ飛び込んでいけそうで頼もしい応援団長だ。

取材 福井貴美子(文)
森 治美

グラフ①

女性の年齢階級別雇用者比率

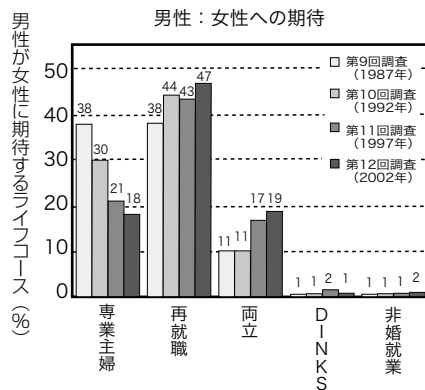


出所：総務省統計局「労働力調査」(平成7年、17年)

グラフ②

男性が女性に期待するライフコース

注：対象は18~34歳未婚者



〈ライフコースの説明〉

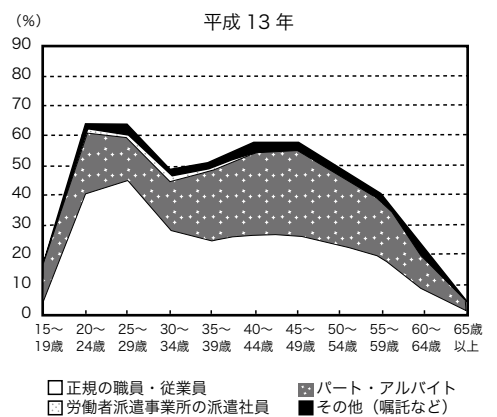
- 専業主婦
結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
- 再就職
結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- 両立
結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける
- DINKS
結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける
- 非婚就業
結婚せず、仕事を一生続ける

出所：国立社会保障・人口問題研究所第12回出生動向基本調査

グラフ③

雇用形態の内訳別年齢階級別雇用者割合

注)役員を除く雇用者の雇用形態別内訳である。



出所：総務省統計局「労働力調査特別調査」(平成13年2月報告書非掲載表)
総務省統計局「就業構造基本調査」(平成4年、9年)

●取材体験記

オフィスを訪問するのは何年ぶりか、という緊張と不安で胸がドキドキの中、取材に同行しました。現在私は、



きらめ

煌いている女性を目指して

夫と子育て中です。いつか二人で起業することが私の夢です。人のために何か私たちができることをやりたいと思っています。子どもが四月幼稚園に入園を機に、受験資格を持っている社会福祉士と介護福祉士を受験し、子どもの小学校入学時には、社会復帰して経験を積みたいと思っています。

いったん企業を退職し職場から離れた私に橘田さんは、「達成できないことは一からやり直す、あきらめない。継



まなこレポーター 石丸 俣恵子 (写真右)

続することは大事で子育て中、まずはボランティアをして知らない世界を勉強していくこと、それは実績にもつながるし再就職にもつながる」とアドバイスをしてくださりました。

前むきに夢をあきらめず若々しく煌きつつける女性(マチュア)を目指し夢の一歩を踏み出す勇気がわいてきました。一時間余りでしたが貴重な時間を過ごすことができました。

「イタリア風家庭料理」の店の経営者は

村上 憲子さん 吉祥寺東町

まだ起業ブームでない頃に、女性経営者としてお店を始め、浮き沈みの激しい吉祥寺の街でしっかりとお客さんの心をつかんでいます。



お店の名前の由来になっているピノキオの人形や絵が飾られています。



お店を始めるまでの経緯

「私は勤めたこともなく、主婦の私が店をすることなどできるかと思いましたが、今年で11年が経ちました。その頃もスパゲティのお店が流行っていたので、料理長と相談して、イタリア料理のお店にしました。始めるときは、主人や子ども、両親みんなと家族会議をしました。朝から夜11時まで長いので、家族の協力がなければやってこれませんでした」。経営者として当然、資金も必要だったから、ご家族の応援、協力は並々のもの

ではなかったと思うが、その決心の大変さを大げさにはおっしゃらない。

それでも店探しには1年かかったそうだ。ご自宅からも駅からも近い場所を探し回り、最後にこのビルを見つけたことができた。駅の南側は不利かな、と思うこともあったが、3階の窓の外にいつもかかっているイタリアの旗は、中央線からも井の頭線からも見えるので、この旗を見ていつか行ってみようと思つて来店するお客さんもいると話してくださった。この場所をあえて選んだ勘の良さ、経営者としての先見の明がある、と思わせられる。

お店への情熱



若い人にも気楽に来てもらいたいという当初の夢は、11年の間に大きく実っている。若いカップルが結婚し、子どもが生まれると店に来てくれる。また、昼にひとり訪れくつろいで過ごす人もいる。他の土地に異動したサラリーマンが何年かして顔をみせてくれることもある。バイトのスタッフがよくその人のことを覚えていてくれるんです、と、

お客さんのことを次々と楽しんでに語ってください。

お客さんは、村上さんの行きつけの美容院で知り合った人などの口コミで来店する人も多いので、普通のお店の雰囲気とはちよつと違うかもしれませんとおっしゃる。そして、いつの間にか満席になつても静かな気配が保たれているという。カンツォーネが流れる落ち着いた店の雰囲気は、村上さんと多くのリピーターが長年の間に作り出したものなのだろう。お客さんがゆつくり過ごせるようにと、必要以上に席にうかがわれないようにと心がけてもいる。

「ご自分を起業家として意識していますか?とお聞きする。

「店を開いてから、いろいろなことを勉強しました。料理長は、大手の会社において、いろいろな店を企画して作り上げた人です。料理も経営も何でも知っているプロなので、11年も続けてこられたのだと思います。これからお店を始めようという若い人には、甘いものではないと言いたいと思います。店の場所や、採算が合うかを考えることです

ね。お客さんが何を欲しているかを感じ取り、それを素直に表していくことが大事なのではないでしょうか。

夢をもち続けて



開店当時は正直、他の店のことが気になったというが、そのうち、「うちのはうちのやり方ではない」と思えるようになり「味を気に入っているお客さんがうちに来てくれている」と考えている。「子ども連れでもいいですか、と聞かれるお客さんがいらつしゃいますが、もちろんです。ただ子ども用の椅子がなくて申し訳ないですが、奥のソファに座つてもらえれば」。

とにかく、来てくれるお客さんを大切にする気持ちで、お話をすべてから伝わってくる。料理長さんにもこれからの夢をお聞きすると、「世界中の味をこの店の料理にアレンジすること」とのこと。村上さんがそばで微笑んでいる。

来店した人はこのお店の空気に染まり、リピーターになるのかもしれない。

取材 栗原恵子(文)

夢……それは「私」をとり戻すこと

松井 昭子さん 吉祥寺北町

けやき並木にアンティーク輸入小物、手作りアクセサリーのお店をもち生き生きと毎日を送る松井昭子さん。お店には松井さんの「夢」がまつっていた。



「まだまだ、はじめの一步です」
やさしさの中にも大きなパワーがあふれている。



「つたい

私はどういあるのー！」

そう心で叫んでいた。独身時代は商社でバリバリ働き認められていた私は、結婚と同時に〇〇さんの奥様、〇〇ちゃんのママとしか呼ばれなくなった。商社マンの夫の転勤でアメリカに住んだ5年間は、まるで家政婦状態。接待の日々が続き、夫は忙しく子育ては全部ひとりで行った。でもどんなに頑張っても「当たり前」と、決して認めてもらえない虚しさだけがつのり胸が張り裂けそうだった。そんな中でも、大好きなパッチワークに触れるひとときだけは自分を癒してくれた。

「アメリカへ行ったらパッチワークを絶対マスターしよう！」と目標をもっていた私は、欲しいキルトを求めて何時間でも車をとばし、技術を得るためならどこへでも行った。何と3年後には人に教えるほどの腕前に！

「40代で

自分のお店をもちたい！」

そう心に決めた。31歳で帰国した時、真剣な思いを夫に告げた。最初は反対されたが、私の強い意志を理解し応援してくれた。輸入から卸し、小売まですべてをこなせるお店を目指し夢の一步を踏み出した。

そして、下の娘が小学生になる頃から本格的な準備を始めた。ブティックで接客を学び、ある会社に就職し、経営業務すべてを見渡せる部署に自ら配属を願い出て、学んだ。そしてきちんと品物の目利きができるようにと、彫金・ビーズ・スパンコール等を積極的に勉強した。頑張つてインターネットも使いこなせるようになった。やっと開店準備の時、資金を借りに行った若い社員に、企画書を見るなり「オ

バサンに何ができる」と言わんばかりの言葉と、鼻で笑われた時はキレましたね！「女をなめてらっしゃるの」と。保証人を頼んだ夫からは、「やつぱりオレがいなけりや何もできない」と言われ、悔しかった。「コンチクシュー！」「よし、やってみよう！」

アメリカでも主婦がバカにされ低くみられる存在だと、イヤでも思い知らされた。「絶対見返してやる」という思いと、どんなことも肥やしにしてきたからこそ、年月はかかったけれど46歳でお店を開くことができた。

「なかなかやるじゃない！」

家族や友人の言葉がとても嬉しい。開店時はお客がなく落ちこみ眠れない日もあったが、「間違ったことはしていない」と自分を信じた。

お店の2階にあるパッチワークやビーズの手作り教室で、生徒さんが見せてくれる満面の笑みは私の喜び。「まるで宝石箱の中にいるみたい」というお客さまの言葉が嬉しくて。



「お金じゃない！『好きな気持ち』を共有できること、人とのつながりが何より嬉しい。それが『私らしさ』と話す言葉には、『これこそが私の夢』という思いが込められているようだ。

「インターネットのおかげでお店に居ながら仕事ができるのはとてもありがたい。でもひとりで駆け回っていると、その都度お店を休まなければならぬのが悩み。まだまだ課題は多い」。いくつになっても諦めない気持ちがあれば何だってできる！と松井さんは教えてくれた。

取材 戸田真帆子(文)

浜 俊子



〈寄稿〉 私の夢

まなこレポーター 田村 恵子



夢という大層なようですが、当面の目標として、2年間自分のために書き続けることを目指しています。「日記をつけるってことね」と思われるかもしれませんが、ある日はエッセイだったり、別の日はフィクションだったりバラエティーに富んだ文章を書くのが目標です。何故、こういうことを夢としているかというと、私は書くことが好きなのに、忙しかったり、ちよっぴり恥ずかしいという理由で書くことに踏ん切りがつかなかった事に気付いたからです。

実は、数年前に心がとても塞ぎ、気持ちのやり場に困った時、自然と内面のモヤモヤを書きだしていたのです。そうしたら何やら心がスツと軽くなり「これだ、これがやりたかったんだ！」と瞬間的に理解したという訳なのです。

それからは、事あるごとに書くことを心がけていますが、本当に書くことを楽しんでいきます。思えば、高校時代も部活は新聞で、一人で色々なペンネームを使ってほぼ全面的に記事を書いていました。2年半ほどそんな活動を続け、嫌になったり、うんざりした記憶はないのです。

ああ、やっぱり私は書くことが好きだったんだな、と思いはしたものの、続けることは子育て兼業主婦の私には、なかなか難しそうです。そこで夫に「これからはなるべく自分のために文章を書こうと思うの」と打ち明けてみました。誰かに宣言するとやめにくくなるかと思っただけです。夫は「いいんじゃない、才能あると思うよ」とおだててくれました。

これから趣味の太極拳で健康管理をしながら、2年後にはまとまった分量の原稿ができれば、ひとまず夢の第一歩が踏み出せたことになりました。その後はまた、その時考えようとのんびり構えています。

まなこ65号アンケートから

『まなこ』のアンケートはレポーターを中心にお願いしています(レポーターは毎年3月に募集)

Q1 実現したい夢がありますか。いつ頃、実現可能と考えていますか。

- ・自分のできることで仕事をして社会の役に立つこと。最近、友人の紹介で再開。まだ声をかけてもらえる、やれることがあると思うとうれしい。
- ・今の仕事で評価されること。
- ・子どもの頃からの夢である「先生」になりたい。子育てが終わったら挑戦するつもり。
- ・前の仕事に戻ることに。小さな子どもがいる限り実現不可能。
- ・資格を生かしたい。時期は未定。
- ・独立する。
- ・定年まで会社に勤め続けることが当然と思っていたが、家の都合で実現不可能な夢に終わってしまった。
- ・世界を見て回ることに。元気で動ける内に、10年以内くらいに。
- ・合唱に参加。すでに最近実現させた。

Q2 現在、夢に向けて具体的に考えていること、していることは？

- ・時間のやりくり。
- ・健康で自立生活をする。
- ・資金を貯める。
- ・教養を身につけたりしている。
- ・夫と子どもたちの自立。
- ・人に会う。
- ・準備・予習・反省を怠らない。



■ ライター入門講座



テーマは「楽しく書ける文章術」

自分の伝えたいことを楽しく書いてみませんか。この講座で書くことが苦手から楽しみに変わります。きめ細かい添削で指導していただきます。

- 日 時：平成19年1月29日・2月5日・19日・26日
(すべて月曜日4回) 午前10時～正午
- 場 所：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
- 講 師：西村良平氏
(日本エディタースクール講師・実践女子短大講師)
- 定 員：市内在住・在勤・在学者20名(超えた場合抽選)
保育5名(1歳以上学齢前)
- 費 用：無料
- 内 容：第1回 記事の文章を書いてみよう
第2回 わかる文章を書く
第3回 読まれる文章を書く
第4回 自分ならではの文章を書く
(内容については若干の変更があるかもしれません)
- 申込み：往復ハガキで(記入例参照)

- | |
|-------------------------------|
| ①ライター入門講座 |
| ②住所 |
| ③氏名(ふりがな) |
| ④年齢 |
| ⑤性別 |
| ⑥電話番号 |
| ⑦この講座で勉強したいことや希望について(100字程度) |
| ※講座内容に要望を反映させたいので、必ず記入してください。 |
| ⑧保育希望の場合 |
| ⑨お子様の氏名(ふりがな) |
| ⑩お子様の生年月日 |
| ⑩お子様の性別 |

往復ハガキ(記入例参照)で、または返信用ハガキを持って、1月19日(金)までに市民活動センター(6階)へ。なお定員に満たない場合は、締め切り後も受け付けません。お問合せください。

■ 男女共同参画講演会を開催しました

「技術系で働くということー“私の仕事”女性技術者」

平成18年9月2日(日)、武蔵野商工会館市民会議室で「技術系で働くということー“私の仕事”女性技術者」を開催しました。

企業や研究の場で活躍する4人の女性技術者を講師に招き、仕事の紹介や、なぜ技術者の道を選んだのかなどをお話いただきました。

女性技術者というと、難しい研究をする、どこか特別な仕事のように見えますが、講師の方々には家庭や子育てを大切にしている普通の女性。家庭とのバランスをとりながら充実した仕事を続けている様子をお話いただきました。

また、学生時代に理系の勉強をしていなかったのに技術者になった方もおり、「理系が得意じゃないからできないということではなく、好きな道なら続けていい」と笑顔で語る講師

の言葉に、参加者は興味深く耳を傾けました。

報告書は市民活動センターなどで配布しています。また、武蔵野市ホームページでも公開しています。



講師に個別で質問する時間も設けました



熱心に聞き入る参加者

Q3 あなたの夢を仲間や友だち、家族、パートナーは知っていますか？その反応は？

- ・家族は知っている。
- ・友だちは好意を持って見守ってくれる。
- ・家族に話すとはじめは反対されたが、何とか理解してもらえた。でも、まだまだ先のことだと思っている。
- ・夫がいちばんの理解者である。
- ・夫も子どもも自分のことで忙しいから、あまり知らない。
- ・(前の仕事に戻ることは)夫は大反対するはずなので言わない。時々いつしよに働いていた友人とは話す。

*そのほか、子どもたちの健やかな成長や自立を願う夢も寄せられました。

レポーター会議風景

10月13日(金) 10:00~12:00
市役所第606会議室にて

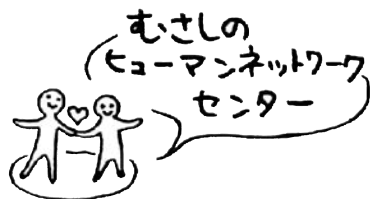


64号「健康維持とつらくならない介護」について

- ・足の怪我で入院。退院する際、住まいのバリアフリー化を勧められたが、あまり楽をするとぼけると思い、歌舞伎座に行くのを目標にリハビリに一生けんめい打ち込んだ。
- ・介護には自由な時間を取られるという不安を感じる。そこに子育てが加わると思うと…。月に2、3回、遠方の義母の家に帰ると、話し相手や草むしりなどで大変だが、義母の心からの笑顔が救いでもある。
- ・ケアマネージャーに会って考え方が変わった。「施設を利用するのは決して悪いことではない」と。少し気持ちが楽になった。

65号「夢をかたちに」に向けて

- ・やはり、仕事をするのが夢。義母の姿を見ても、働いている方が長持ちしそうだ。
- ・娘たちが幼いので、独身時代のハードな仕事には戻れないが、子どもたちと関わる仕事に新たなやりがいを見出すことができた。
- ・Webデザインを学び、インターネット上でホームページやショップを開きたいと思っている。
- ・自分の夢を断ち、夫や息子たちの夢をずっと支えてきた。
- ・100歳になっても心身ともに健やかに過ごしたい。こんな夢を皆で共有できれば。



今回のテーマに関する本を、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書の中から

● 33歳、子供2人、それでもコピーライターになりたかった

長井和子 著 亜紀書房



専業主婦歴11年、「○○さんの奥さん」「○○ちゃんのお母さん」……じゃあ私の一生って何? 憧れの仕事を指して若者に混じり悪戦苦闘。子持ちの主婦がコピーライターとしてデビュー、そして女性のためのビジネススクールを開設。
「本当にやりたいことのためならプライドを捨てよう」の言葉は、「私なんか……」と自信を失っている人や、何かを始めたいと思っている人の背中を押してくれることでしょう。

● その仕事、好きですか?

南ゆかり 著 ワニブックス



料理人、芸妓、衆議院議員、建築家、和紙職人、気象予報士、クラブのママ、イルカ調教師、花火師、ネイチャーガイド、杜氏、弁護士などなど20人の働く女性を紹介。楽しいことより辛いことの方が多いは当たり前、それでも仕事が「好き」。それは仕事が自分の成長を実感できるから。様々な職種がある中で、なぜその仕事に就き、どんな試練や魅力があるのか、生の声が聞こえてきます。

武蔵野市境2-10-27武蔵野市政センター2階 TEL・FAX 0422 (37) 3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL http://www.mhnc.jp/

STAFF

レポーター	石丸惺恵子・上野敏子 後藤 瞳・田村恵子 平井弥生・真壁正江 森 淳子
取材・編集	森 治美(編集長) 栗原恵子・戸田真帆子 浜 俊子・福井貴美子 松田理恵
☆他にもたくさんアンケート協力員、 編集協力員に支えていただいています。	
レイアウト	小井戸厚子
イラスト	本田 倫
印刷	社会福祉法人東京コロニー

● 1年間の締めくりとなる3月発行予定の66号は、「新しい自分、新しい人生(仮)」をテーマに取り上げます。「団塊の世代」がいつせいに退職を始める現在。リタイア後の男性の生き方は頻りに話題になりますが、職場や家庭で頑張ってきた女性たちは、どんな暮らしを選ぶのでしょうか。

★「男女共同参画」、言葉は堅苦しいけれど寄せられる思いは実に豊かで熱いもの。毎回のレポーター会議もまさに「熱闘井戸端会議」です。(森)

★タルミも回復可能と信じ、顔の筋トレに励み、口の内側の肉を噛んだ。からだの中からたるんでいた。(福井)

★夢に向かって「今からでも遅くない!」と挑戦できる人は羨ましい。私が蒔いている夢の種は一つも発芽しない。季節はずれかな。(浜)

★目標をもった瞬間から目の前がぼつと明るくなる。元気がわいてくる。誰のどんな夢にもそんな力があるんだ。(戸田)

★取材を終えてホッ。これからはまた、ふつうのお客さんになって、ゆったりした気持ちでドリアやパスタを味わいたい。(栗原)

編集後記